特集：道徳・価値教育に関する論考

人間としての生き方について生徒一人一人が自覚を深め、自他を肯定できる心を育てる新たな道徳教育へのチャレンジ
～自己肯定感、自己有用感を得た平方プライドの育成～

宮　崎　里　美

（越谷市立平方中学校）

Challenges to New Moral Education for Purposes of not only Making each Student Deeply Aware of Ethical Ways of Living as Humans but also Promoting their Spiritual Growth for Respect and Affirmation of themselves and others

MIYAZAKI　SATOMI

(Hirakata Junior High School, Koshigaya-City)

要　旨

新しく特別な教科として位置づけられた道徳。教科とされた背景には、学校現場の現状も強く反映されている。それは、画一化、マンネリ化した道徳の授業と子どもたちの変容が見られないジレンマもあると思われる。本校では、研究指定を受けたことを契機として、子どもたちの自己肯定感、自己有用感を高めるために道徳教育を活用したいという試みをしている。いじめ、人権、国際理解等々、様々な教育活動のテーマと連同させた道徳教育の取り組みを展開中である。

１　はじめに

本校は、開校38年目を迎えた、生徒数404名、12学級の中規模な中学校である。越谷市の北に位置し、国道４号バイパスの近くに立ち、自然豊かな田園地帯にある。

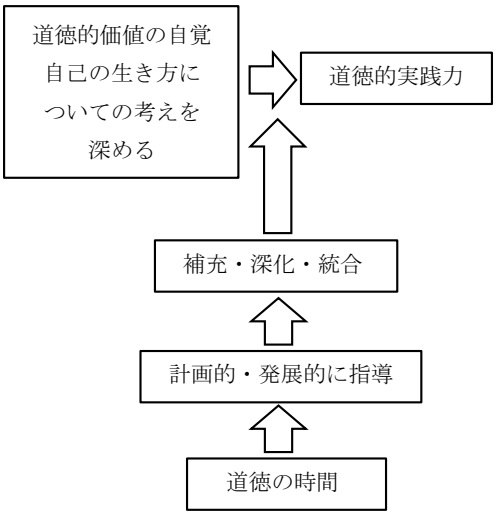
本校の道徳の授業の取り組みでは、生命の大切さや思いやり、夢の実現を重点課題に、地域や保護者と連携して「子どもに自信をつける～平方プライドの確立～」を目指している。すべての子どもたちが自分のよさや得意なことを見つけ、自分に自信をつけてもらいたいと考えている。また、学校教育目標「友愛・自学・情熱」の具現化を図る教育活動を行っている。「自分のよさを知り、自分の存在を実感し、自他共に大切にする」「学びの楽しさを知り、進んで自ら学ぶ」「自分を律し、高める」という具体的な行動目標を掲げ、道徳の授業を中心とした校内研修を通して、正しい判断のうえに立って自主的に行動し、自己の向上に努める生徒の育成を目指している。

また、平成26・27年度には、越谷市道徳教育振興会から「越谷市道徳教育振興推進事業」の委嘱を受けて研究に推進して、生徒が体験活動に取り組み、主体的に行動する生徒の育成に取り組んでいる。また、校長の学校経営方針に基づき、意図的、計画的な指導を通して、生徒の道徳性の育成に取り組んでいる。

２　道徳の時間のとらえ方

道徳の時間においては、道徳教育の目標に基づき、各教科、学級活動、総合的な学習の時間、特別活動における道徳教育と密接な関係を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚および自己の生き方についての考えを深

め、道徳的実践力を育成しなければならない。したがって、確かな道徳性実践力を身につけるためには、生徒一人一人の豊かな体験の積み重ねに基づく話し合いを確実に実施することが大切である。



「道徳」を辞書で引くと「社会生活を営む上で、ひとりひとりが守るべき行為の規準の総体。自分の良心によって、善を行い悪を行わないこと。」と記載されている。それを踏まえて、道徳の時間では、道徳性を養い、道徳的価値の自覚を深めると同時に人間としての生き方（人間らしさ）を深める時間にすることが大切である。

３　道徳性のとらえ方

道徳性とは、人間としてより良く生きようとする際の心の働きであると考える。「より良く生きる」とは、社会一般に受け入れられている社会的規範を尊重する態度を指すだけでなく、文化や集団を超えた普遍的な価値について考え、正義や公正さの観点から複雑な社会問題を解決しようとする能力、思いやりや配慮など対人関係を重視し、立場の異なる者同士がお互いに尊重し合う関係を作り出す能力まで含んでいる。

「心の働き」には、感受性（気付き）、判断（思考）、焦点づけ（目的）、実践力（実行）の４つがある。「感受性」とは、道徳的な問題が起きていることに気付くことであり、他者の感情を予期し、他者の心情を推し量ることである。「判断」とは、問題の起きている状況を理解し、行為の善悪を判断したり、どのような行動が適切かを判断したりすることである。「焦点づけ」とは、個々の状況において、また日常の生活において、どのような要求よりも道徳的な価値を優先させようとする指向性をもつことである。他者を尊重し、良心を育て、意志決定に自信を持ち、行動に責任を持ち、共同体の一員としての自覚を持つという要素を含んでいる。「実践力」とは、道徳的に価値ある行動を実行するスキル、対人的問題解決能力、困難に立ち向かう勇気、困難な状況でもあきらめない忍耐力、問題を解決するリーダーとしての率先性といった能力や性格特性である。これらの要素は、順番に生起したり発達するものではない。それぞれが関係し合い、特定の状況下における道徳的な行為を促すだけでなく、人格や品性の発達の基盤を成すものである。

４　道徳教育の要としての「道徳の時間」

具体的な状況の中での道徳的経験をつなげ、それらを整理する認識の枠組みは「道徳の時間」を通して獲得される。道徳の指導資料や教師の自作資料には、子どもにとっては未経験であったり仮想的であったりするものの、身近な出来事が表現されている。現実の葛藤を描いていないため、当事者の感情に巻き込まれることなく、自分の経験を整理し、それを道徳的価値の観点から意味づけることができる。また、将来起こりうる出来事を整理する枠組みを与えることができる。この認識の枠組みが道徳的な概念であり、道徳の内的形成や価値の内面化と呼ばれるものである。

「道徳の時間」の指導の方法として、さま

平成27年度

道　徳　教　育　全　体　計　画

越谷市立平方中学校

教育関係法規
- 日本国憲法　・教育基本法
- 学校教育法　・学習指導要領
- 県中学校教育課程編成要領
- 県指導の重点・努力点
- 越谷市教育委員会の教育目標等

学校の教育目標

友愛　自学　情熱

具体目標
- ◆ 思いやりのある生徒
- ◆ 自ら学ぶ生徒
- ◆ 心身を鍛える生徒

時代や社会の要請
- 生徒の実態
- 教育に関する3つの達成目標
- 心に響く道徳教育の推進
- 保護者や地域のねがい
- 教師のねがい

学校経営方針
- 「活力ある学校」
- 「学ぶ喜び、生きる喜び」の教育
- 家庭、地域との共育
- 外部評価、PDCAマネジメント
- 心の教育、特色ある教育

校長の道徳教育の方針

「子どもに自信をつける」
子ども、教職員、保護者、地域が誇れる
平方プライド　の確立

学校・地域社会等、ねがいと実態調査
- 学校評価、外部評価
- PTA保護者会、役員会
- 地区会長、民生児童生徒委員会
- 学校評議委員意見交換会
- 道徳調査、PTAアンケート

特別活動
- 集団の一員として自覚を深め、自主的実践的活動から人間としての生き方の自覚を深める。

学級活動	・学級、諸活動を通して生徒相互の温かい人間関係を築き、個性や能力の伸長や協力の精神を育てる。
生徒会活動	・学校の一員として、活動を通してなすことを学び、自主的、実践的な態度を育成する。
学校行事	・道徳教育実践の基盤は学級にあるという認識のもと、折に触れて道徳教育の実践を図る。 ・集団生活の中で他者と関わる力をつけ、自発的な態度を養う。

道徳教育の目標

「心豊かに、生き生きと生活できる生徒の育成」

道徳教育の重点目標
1. 自主的に考え行動する態度を養い、自律性を育成する。
2. 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場を尊重し、助け合う心を育成する。
3. 生命の尊さを知り、自他の生命を尊重する心を育成する。
4. 社会生活を送るうえで人間として持つべき規範意識を身につける。

各教科
- 体験的、問題解決的な学習に心がけ「学び合い学習」を通して自分の生き方と関わらせようとする態度を育てる。

国語	・思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにすることによって、道徳的心情や道徳的判断力を育てる。
社会	・伝統と文化を尊重する心や郷土を愛する心を育てるとともに、世界の中の日本人としての自覚を深める。
数学	・事象を数理的に考察し、筋道を立てて考えを表現する力を高めることで、道徳的判断力を育成する。
理科	・科学的な見方や考え方を育てることで、道徳的判断力や真理を重んじる態度を育てる。
音楽	・音楽に対する感性を養うとともに豊かな情操や道徳的心情を育てる。
美術	・美しいものや崇高なものを尊重する心を養うとともに豊かな情操や道徳的心情を育てる。
保健体育	・ルールを守ることや望ましい集団活動や生活習慣の大切さについての理解を深めることで道徳性の基盤を養う。
技術・家庭	・進んで生活を工夫し創造しようとする態度を育てるとともに望ましい勤労観や家族を大切にしようとする心を育て
外国語	・国際的な視野に立って世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を育てる。

各学年の道徳教育の重点目標

	第1学年	第2学年	第3学年
1の視点	・望ましい生活習慣を身につけ、自らを律し、生活を正す。 1－(1)、(3)	・自分が決めた目標をめざし、自分を見つめ、自己の向上を図る。 1－(2)、(5)	・より高い目標に向かってねばり強く取り組み、理想の実現をめざす。 1－(3)、(4)
2の視点	・助け合いの精神を重んじ、生活を支えている人への感謝の気持ちをもつ。 2－(2)、(6)	・相手の立場に立って、お互いのよさを認め、励まし合い、高め合う。 2－(2)、(3)、(4)、(5)	・人間尊重の精神を基盤に、他者に対して思いやりと寛容の心をもって接す 2－(2)、(5)
3の視点	・身近な自然と触れ合い、生命のつながりを自覚して、生命を尊重する心をもつ。 3－(1)、(2)	・自然の営みに生命を感じ取り、感動や畏怖の念を深める。 3－(1)、(2)	・心の弱さや醜さを克服して、自分に恥じない生き方をする。 3－(1)、(3)
4の視点	・法やきまりの意義を理解し、集団の一員としての役割と責任を果たす。 4－(1)、(4)	・社会連帯の自覚を深め、差別や偏見をなくし、よりよい社会の実現をめざす。 4－(2)、(3)	・人間としての最低限の規範意識を身につけ、積極的な社会参画の自覚を深め 4－(1)、(2)、(4)、(5)

生徒指導
- 共感的な人間関係を育み、一人ひとりが目標を持ち、将来を展望し、自己実現を図る。
- 自己理解を深め、自己実現を図るための能力・態度を高める指導の手だてを工夫する。
- 差別や偏見のない、人間尊重の精神の育成に努める。
- 学校、家庭、地域が一貫した指導姿勢をもって指導にあたる。

進路・キャリア教育
- 自分の特性や将来を考え、自分にふさわしい進路を選択し、その実現に向け努力する。

教育環境の整備
- ○生徒の豊かな心を育て、道徳的実践意欲を高めるような環境づくりをする。
- 生徒と教師、生徒相互の望ましい人間関係づくりに努める。
- 図書館の整備、充実を図る。

豊かな体験活動
- ○全教育活動において、道徳的実践力を促したり、道徳的実践力を培ったりするための場を充実する。
- 人、物、自然とのふれあい
- 各教科、道徳の時間の学習
- 総合的な学習の時間の学習
- 職場体験を通じての学習

家庭・地域等との連携
- ○学校、家庭、地域の相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。
- 学校公開日、授業参観、保護者会
- 学校だより、道徳通信の作成・発行

総合的な学習の時間
- 問題を主体的に解決する力、情報活用能力、発表力を身につけ、自分自身を見つめ、互いに認め合い、高め合う場とする。

学級経営
- 一人ひとりを大切にする学級集団づくりを目指し、人間尊重の精神を育む。
- 心の交流を図り、互いに認め合う関係づくりに努める。

道徳の時間の基本方針
- 全教育活動で行う道徳教育の補充、深化、統合する「要」の時間
- 道徳的価値および人間としての生き方について自覚を深める。
- 生徒一人ひとりの道徳的心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的実践力の向上を目指す。
- 体験的な活動を生かす指導を展開する。
- T・T、役割演技、写真、DVDの使用、新聞の切り抜き、保護者や地域の人材の活用等、創意工夫を図る。
- 「私たちの道徳」の活用を年間指導計画に位置づけ、補助的活動、道徳的価値のまとめや考えの整理に利用する。

図１　越谷市立平方中学校の道徳教育全体計画

ざまなものがある。ロールプレイング、モラルジレンマ、社会的スキルトレーニングなどである。いずれの方法も視点取得能力を促すとともに、道徳的な気づきや実践力を高める上でとても優れたものである。中には構成的エンカウンターの手法を取り入れたものもある。これらの授業は、子どもうけもよく、楽しい雰囲気で授業を進めることができる一方で、体験すること自体が目的となってしまう場合もある。エンカウンターは仲間づくりを目的としている心理教育の手法の一つである。仲間をつくるというのは道徳性の発達と関係が深いが、「道徳の時間」で実施する場合は、それがどのようにして道徳的価値の内面化と関連するのかについて考えてから取り組むことが大切であると考えている。

５　道徳教育の全体計画

図１は、本校の道徳教育推進のための全体計画である。学校教育目標を道徳教育の観点から具現化した。道徳教育の全体計画は、本校が学校教育目標に向かって一貫した道徳教育を展開する基本になるものであることを、校内研修の場で確認しあっている。

６　道徳教育の実践状況

（１）平成２６年度の研究内容

昨年度は、越谷市道徳教育振興推進事業の委嘱１年目として、まずは道徳に対する教員の苦手意識の克服を行うことにした。そして、道徳の授業研究を行うことで、今現時点での本校の課題を浮き彫りにし、生徒の実態に合わせた魅力的な道徳の教材開発・教材研究に取り組み、生徒の道徳心が充実するような道徳の授業が展開していけるように心がけた。

①平方中学校ブロック３校による、道徳授業合同研修会　８月２７日（水）

講師　久喜市立鷲宮西中学校長
　　堀内俊吾　氏

演題「豊かな心をもった平方中学校区の子どもたちをはぐくむ道徳教育～自分の考えを深め、自らの成長を実感できる道徳の時間を求めて～」

平方中学校の校区である平方小学校と桜井小学校の教職員とともに、グループワークを通して道徳の資料分析を行った。その後、各学校にて実践を行った（図２）。

図２．小学校、中学校の教職員の合同研修会の様子

②越谷市道徳教育振興事業による現地研修会

１１月２８日（金）

授業者　教諭　宮崎里美（第１学年２組）

読み物「恨み貯金はしない」

越谷市道徳教育推進事業の委員のみなさんをお招きして、中学校での道徳の授業の様子を見学していただいた。この道徳教育推進委員のメンバーは、学校の教員だけでなく地域で活躍されているボーイスカウトの方やボランティア活動をされている方たちも含まれており、授業を見学したあとで、さまざまな立場から意見交換を行った。学校教育における道徳の授業の位置づけや今後の課題などについて貴重な意見をたくさんいただいた。道徳の時間ではぐくまれた道徳的実践力が、さらに道徳的実践へと生かされ、道徳的価値が生徒の日常生活や将来へとつながり、より高められることができた（図３）。

添付資料１は、この授業の指導案である。

図３．道徳の授業の様子

③ 特別活動との関連

・「飛翔」の活用

本校で資料収集・編集の特別活動資料「飛翔」を使用し、自分という人間を理解してどう生きていくかを考えさせた。

この副教材は３年間通して使用することができるようになっている。そのため、同じテーマ設定でも３年間の心の変容を読み取ることができる。自分自身が最初はどのように感じていたのか、そこからどのように考え方が変化し、今に至るのかを見て取ることができる。自分自身を見つめる資料として、本校ではこれまで取り入れていた。

・学年職員が学年内全学級で授業

各クラスの担任が自分のクラスで道徳の授業を行うだけでなく、各学年職員が道徳の読み物一つを担当することにした。そして、ローテーションを組むことによって、どのクラスも同じ資料を必ず取り組むことができた。道徳の授業力向上にも繋がることができ、また、道徳の授業をお互いに参観し合い、資料分析などを通して成果の共有化を図ることができた。

④道徳授業「匠の技」伝承事業による校内研修会　平成２７年１月２６日（月）

講師　元新座市立第五中学校長
　　五十嵐由和　氏

演題「道徳の授業力向上を目指して」

（２）平成２７年度の研究内容

越谷市では、本年度から５年間かけて市内小中学校一斉に「小中一貫教育研究」を進めている。本校では、平方中学校ブロックとして、校区である平方小学校、桜井小学校と密接に連携して校内研修を進めている。また、積極的なＩＣＴ機器の活用と言語活動の充実を推進し、道徳の授業でもＩＣＴ機器を用いた資料を用いることで、道徳の授業に対する新たな可能性を見いだすことに重点をおいて取り組んでいる。

①本校の校長による師範授業

（７月１０日（金））

授業者　校長　大西久雄（第３学年１組）

自作資料「療養所－ｻﾅﾄﾘｳﾑ－（さだまさし）」

本校の道徳教育をより活発にしていくにあたり、校長自ら資料を探して作成し、示範授業として道徳の授業を一般公開して行った（図４）。

校内研修の一環として行うことで、積極的なＩＣＴ機器の活用による、言語活動が取り入れられた道徳の授業の展開から、読み物やＤＶＤ鑑賞に頼りがちな、道徳の授業に対する教員の価値観に変化が生まれるようになった。

添付資料２は、この道徳の授業の授業計画である。

②平方中学校ブロック３校による、道徳授業合同研修会　８月２７日（木）

指導者　越谷市立栄進中学校長
　　島方　勝弘　氏

動画教材「家族の夢（パナソニック株式会社 ストラーダ美優Naviより）」

図４．校長による道徳の授業の様子

図５．小学校、中学校の教職員の合同研修会の様子

平方中学校の校区である平方小学校と桜井小学校の教職員とともに、グループワークを通して道徳の資料分析を行った。今年度は、小中一貫教育研究の１年目ということもあり、小学校でも中学校でも道徳の授業で取り扱うことのできる道徳の資料はないか考え、この動画教材を取り扱うこととなった。この資料は、パナソニック株式会社のカーナビの販売促進資料ではあるが、さまざまな視点をから動画教材を読み取ると実に深い内容が含まれていることがわかる。この部分を校内研修で取り上げた。小学校や中学校の教職員で話し合い、どの価値で資料を読み取って授業を展開していけばよいのか、児童生徒に何を感じ取ってほしいのかを話し合い、お互いの意見交換を行った。この場での話し合いをもとに、それぞれの学校で教育実践を行っている（図５）。

本校では、この動画教材を１０月１９日（月）に行われた、東部教育事務所支援担当訪問で各学年道徳の授業を公開し、また授業研究でも道徳を取り上げて実践した。

④道徳教育と人権教育の連携

１１月１６日（月）

自作資料「Who will stop the Bullying? All of us.「誰がいじめを止めるのか？」

本校では、人権教育（特にいじめ）をテーマにして全校集会を行った。昨今、いじめを苦に命を絶とうとする事件が起こっている。大人の社会でも子どもの社会でも、いじめというものは存在する。いじめは絶対にやってはいけない、許してはいけないと理解できていても、いじめというものは無くなっていかないのが現実である。

では、そういう現場や状況に出会ったときに、私たちはどういう行動をすることができれば良いのだろうか。

校長による自作教材の動画とプリントを通して、いじめについて考えた。１２月１７日（木）に人権集会が予定されているが、その人権集会を前に、生徒の意識の中で、人間としてより良く生きていくために必要なことはなにか、を学ぶ良いきっかけとなった。

添付資料３は、この人権教育の全校集会の提示資料である。

７　今後の道徳教育について

（１）本校の校長による示範授業

１２月３日（木）/ ８日（火）

授業者　校長　大西久雄

（第２学年３組 /２組）

自作資料「Google Glasses Project YouTube『すぐそこにある未来をのぞいて』」

本校での道徳教育を推進していく上で、校長自ら資料を探して自作資料を作り、示範授業として道徳の授業を公開して行う。

校内研修の一環として行うことで、道徳の授業に対する教員の苦手意識を払拭し、また、校長自ら率先して道徳の授業を行うことで、同じ資料を自分が道徳の授業で扱うときにどのように展開して取り組んでいけばいいのか参考にすることができる。

添付資料４は、この道徳の授業の授業計画である。

（２）越谷市指導法改善研究員「道徳部会」研修会　１２月１８日（金）

授業者　教諭　宮崎里美

（第２学年３組）

ＤＶＤ資料「家族の夢

（パナソニック株式会社　ストラーダ美優Naviより）」

指導者　越谷市教育委員会

指導課　松本由美　氏

文教大学

教授　豊泉　清浩　氏

８月２７日（木）に行われた、平方中学校ブロック３校による、道徳授業合同研修会で取り扱った動画教材をもとに、越谷市道徳教育の授業改善法の一環として、研究授業を行う。校内研修で取り上げた、ねらいとする価値にどこまで近づいていけるのかを授業実践を通して学んでいく。また、この動画教材から、生徒はどのようなことを感じてこれからの中学校生活に生かしていくことができるのか、生徒の道徳性を育んでいきたい。

８　おわりに

道徳の時間とは、各教科や特別活動などにおける道徳教育を前提として、それらを補充・深化・統合するものとして位置づけられている。それは、道徳の時間が設置された昭和33年から言われ続けていることである。

しかし、その実態、現状はどうだろうか。文部科学省では中教審の各審議を通して、学習指導要領の改定作業を進めている。特に道徳においては、平成27年度から先行して特別の教科として、学校教育現場に登場している。この背景には、指導をためらう教師と子どもの受け止めの弱さが長く課題とされてきたという現状がある。道徳の授業はもっと子どもたち同士の話し合いや議論がなくては深まらないのではないだろうか。そのためには、従来の固定化、観念化した授業の在り方を考え直したい。教育活動全体で子どもたちが主体的に考え、思いを発する機会を創出したい。そのことで、子ども一人一人が自分の存在を自覚し、他者の存在を尊重する、それを本校の求める「平方プライド」の一つにしたい。本校は、そのような視点で今年度から道徳教育を見つめ直してきた。

つまり道徳の時間は、各教科や特別活動など全教育活動における道徳教育と関連させ響き合わせなければならない。

今回は、道徳の時間を要に道徳的価値に触れ、その良さを実感できるようにし、それらを十分にふまえた上で道徳の時間に自己を見つめさせた。道徳的価値を自分のこととしてじっくりと考えさせることができたと感じてはいるが、道徳教育の成果は、すぐに子どもの姿としてあらわれるものではない。しかし、この「越谷市道徳教育推進事業」の一環として取り組んだ２年間の研究を通して、子どもたちに変容が見えてきたと思われる。道徳教育で実践してきたことが、日常生活の中により良い行動のあり方としてあらわれてきていると思われる。

子どもたちは「平方プライド」に少しずつ近づきつつあると思われるが、個々の差はまだ大きい。

今後の課題としては、本校の研究主題に迫

るために、各学年や各学級の日々の子どもたちの学校の様子を的確に捉え、これまでの実践状況、指導体制の見直しをさらに行い、教職員が一丸となって、道徳教育を推進していくことが出来るようにすることであると考える。

９　添付資料

（１）道徳の指導案
「恨み貯金はしない」長谷部誠　著

（２）道徳授業計画
「療養所－サナトリウム－」
自作資料

（３）人権集会
「Who will stop the Bullying?
All of us.誰がいじめを止めるのか？」
自作資料

（４）道徳授業計画
「Google Glasses Project
YouTube『すぐそこにある未来をのぞいて』」
自作資料

添付資料（1）

第〇学年〇組　　道徳学習指導案

検　印

平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇）
第５校時　　〇年〇組　教室
授業者　　教諭　宮崎　里美

１　主題名　謙虚に学ぶ心　２－（５）自他の尊重、寛容、謙虚

２　関連価値　１－（４）真理愛、理想の実現

３　資料名　「恨み貯金はしない」
（出典　長谷部誠『心を整える。勝利をたぐり寄せるための５６の習慣』幻冬舎）

４　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

私たちは、生きていく中で多くの人たちと関わって生きている。それは、人間は一人では生きていけない生き物だからである。家族や友だちをはじめとする、他の人たちとの関わりを通して、温かい人間愛を育んでいくことは人間としてきわめて大切なことである。その中で、謙虚さとは、素直で控えめな心と広い視野を持ち他者と接しようとする態度のことである。人間は、自分を守るために自分本位に陥りやすく、自分と異なる立場や意見を受け入れられないこともある。特に中学生の時期では、いろいろな角度から物事を見ることはまだ難しく、自分の考えに固執したり、異なる意見を持つ人に否定的になってしまうことも少なくない。しかし、人間一人一人は完全な生き物ではなく、だからこそ常に他に学びながら自分の視野を広げることが大切となる。中学生の時期は、自我に目覚め、自主的に考え、行動することができるようになる。ものの見方や考え方には、人それぞれ違いがあり、他の人とまったく同じであるということはない。開かれた心で他者と接し、謙虚に学んでいくことによって、己の個性を磨き、人間として、さらに成長することができるであろう。

そこで、本授業を通して、いろいろな立場や意見があることに気づかせ、謙虚な心を持ち、広い心で前向きに生きていこうとする心情を育てたい。

また、人はみな、より良く生きていきたいと願っている。その願いを大事に育てながら、困難を乗り越え努力するところにこそ生きがいがあるということに気づかせ、実感させたいと思い、この主題を設定した。

（２）生徒の実態について

本学級の生徒の多くは、仲間と協力したり喜びを分かち合えたりすることのできる雰囲気を持っている。実際に、運動祭や合唱祭を通して、心をひとつにして協力し合って取り組む姿勢が見られている。また、誰とでも分け隔てなく仲良くすることができ、元気で活発な生徒も多い。毎日明るい雰囲気の中で学校生活を過ごすことができている。中学校に入学して約８ヶ月経ち、今は次の学校行事であるスキー教室に向けての取り組みを、学級委員を中心に自分たちで考えて取り組んでい

こうとしている。少しずつであるが、仲間と協力することの大切さ、係活動や委員会活動にすすんで取り組むことなどから、集団生活の中で一人一人が自分の役割に責任を持って行動することの大切さを理解しているように感じている。しかし、一方で、係の仕事を疎かにしてしまう場面も見られ、また、自分のことはしっかりやるけれど、周りのことをあまり気にしないところもあり、自分さえ良ければいいという、自分本位な態度や行動をとってしまう生徒もいる。

中学生の時期は、ものの見方、考え方に違いが現れてくるとともに、個性がはっきりしてくる。そのため、自分と異なる見方、考え方に対し、排他的になることもある。自己中心的な立場や考えに固執することなく、他者との関係を見つめ直し、自己理解を深め、他者から謙虚に学ぶ広い心を育て、自己の向上を図ろうとする態度を育てたい。そして、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもった、責任ある行動をとることができる人間になってほしい。間もなく２年生を迎える、これからの中学校生活で、生徒たちはさまざまなことに悩みや苦しみを抱え、壁にぶつかることもあるだろう。しかし、その過程で友だちや家族、周りの人たちと関わっていく中で、一つずつそれを乗り越える経験を積んでほしいと思っている。そして、その経験を通して、視野の広さや謙虚な心の大切さに気づくとともに、困難にくじけずに自己の理想の実現に向け努力することの重要さを自覚させたい。そして、誰に対しても感謝の心を持って接することのできる生徒を育みたい。

（３）資料の活用について

本資料は、サッカー日本代表として活躍する長谷部誠選手の著書「心を整える。勝利をたぐり寄せるための５６の習慣」より抜粋したものである。本書は、長谷部誠選手自身の今までの経験を基に書かれた自己啓発書である。

この部分は、プロサッカー選手としてスタートを切った長谷部誠選手が、試合出場を果たせなかった悔しさをむき出しにしながらも、見方を変えて、謙虚に、前向きに進んでいこうとする姿が書かれた一節である。

その中で、主人公の長谷部誠選手の心の動きを大切にしながら、

①初めてメンバーに選ばれて、試合に出られると思っていた気持ちや頑張っている姿を家族に見せたいと思う心情を浮き彫りにし、共感させていく。

②試合に出て頑張ろうと思っていた主人公が試合出場を果たせなかった情けなさやいらだちの気持ちなどを自分と重ねながら考えさせていく。

③自分を試合で使わなかった監督に対しての主人公の率直な考えを引き出していく。

④主人公がつかんだ生き方から、いろいろな立場や意見を尊重することや謙虚に学ぶ心の大切さを深く考えさせていく。

主人公の長谷部誠選手の気持ちや考えを浮き彫りにしながら、いろいろな立場や意見があることに気づかせ、謙虚な心を持ち、広い心で前向きに生きていこうとする心情を育てたい。そして、自己の尊厳に気付き、何が正しく、何が誤りであるかを自ら判断して望ましい行動がとれる人間になってほしい。人と人との関わりを通して、他の人たちに対する思いやりと感謝の心の大切さに気づかせることで、ねらいにせまっていきたい。

５　事前指導

生徒には、私たちの道徳Ｐ．７２～７３「認め合い学び合う心を」の『人それぞれに異なるもの

の見方・考え方がある』の欄を参考にしたアンケートを事前に行い、まとめておく。

6　ねらい

謙虚な心を持ち、いろいろな立場や意見があることに気づき、広い心で前向きに生きていこうとする心情を育てる。

7　研修主題との関連

（1）研修主題との関連

本校の学校研究主題

「自ら学ぶ力と自己指導能力を身に付け、自分に自信を持つ生徒の育成」 ～　学ぶ楽しさと変われる自分を実感させる学校・地域の取り組み　～

これまでの教育実践を踏まえた上で、「道徳の時間を要として学校の教育活動全体を行うもの」である道徳の授業を通して、話し合い活動や書く活動を取り入れた授業を展開することで、自分の考えをまとめ、伝える力の育成を行い、自己達成感、自己有用感を味わわせる。そして、個に応じた指導方法を工夫して学習意欲を高め、より一層多様な学習活動が展開できるようにしていく。

（2）研修主題に迫る手だて

言語活動の充実を目指して、授業の中で話し合い活動、書く活動を取り入れていきたい。主人公の生き方（心情の変化）を自分にうつし、変われる自分を実感させることによって、話し合った思いや意見を全体の場で発表させるとともに、切り返しの発問や補助発問によってさらに生徒の思いや考えを深めさせていきたい。

8　本時の展開

段階	学　習　活　動	○発問 ・予想される生徒の反応	・指導上の留意点
導 入	1　事前のアンケートの結果　をまとめ、伝える。	○アンケートの結果の感想を聞かせてください。 ・アンケートの結果を見ながら共感する。	・アンケートの結果から授業への関心を高める。また、実際に経験したことの感想を聞くことで、本時の内容の意識づけをする。 ・本時への興味が持てたか。
展 開	2　資料を紹介する。 ①登場人物、条件、情況について知る。	○（長谷部誠さんの写真を見せて、）この人を知っていますか。 ・「日本代表の長谷部誠選手」って、聞いたことがあるなあ。 ・どんな話なんだろう。	・写真を掲示して、長谷部誠選手の職業を話して、条件、状況を押さえる。

展		・どんなことを考えるのだろう。	
	・主人公（ぼく、長谷部誠選手）： 長谷部誠選手は、浦和レッズに加入したばかりの選手 初めて遠征試合のメンバーに選ばれた プロになって初めてのチャンス 家族に連絡すると、一家総出で応援に来た ・相手方（浦和レッズの監督）： 長谷部選手を遠征試合のメンバーに選んで、試合に帯同させた ・かかわりの深い人物（家族）： 初めての遠征試合に、一家総出で静岡から上京した		・登場人物の関係を整理する。 ・特に主人公と相手方とのかかわりに注目させる。
	3　範読を聴き、話題の整理と確認をする。	・範読を聴く。	・主人公の気持ちを考えながら範読を聞く。 ・印象に残ったところ、共感できるところに線を引くように伝える。
開	4　話し合いたいところを発表する。	○範読を聞いて、どんなところが印象に残りましたか。 ・心に残ったこと、感じたことを発表する。	・生徒の心に残った所を発表させて、話題を整理していく。 ・資料を自分のこととしてとらえ、考えているか。
	5　本時の学習の方向性を確認する。		
	6　長谷部誠選手の気持ちを中心に話し合う。		

展	①試合に出るまでの出番を待っている主人公の気持ちについて考える。	○家族まで招いて試合の出番を待ち、「いいプレーを見せるぞ」と思っていた主人公の気持ちはどんな気持ちだったであろうか。 ・家族の前で活躍して、いいところを見てもらいたい。 ・初めてもらったチャンス。これを無駄にしたくない。 ・いいプレーを見せて、監督にアピールしたい。 ・いつ試合に出られるかな。 ・重要な場面で、ぼくを使ってくれるに違いない。	・浦和レッズに加入したばかりにもかかわらず、遠征試合のメンバーに選ばれた主人公の気持ちを考える。 ・遠征試合のメンバーに選ばれて帯同し、当然試合に出場できると思っていた主人公の気持ちや、頑張っている姿を家族に見せたいと思う気持ちに共感できたか。
開	②試合に出られなかった主人公の気持ちについて考える。	○試合に出られずにバスに駆け込んだ主人公の気持ちはどんな気持ちだったであろうか。 ・くやしい。 ・情けない。 ・何でぼくを使わないんだ。 ・何のために監督はぼくをここまで連れてきたんだ。 ・家族に合わせる顔がない。 ・誰にも会いたくない。 ・試合に出られると思って舞い上がっていた自分がバカみたい。	・試合に出て頑張ろうと思っていたが、試合に出られなかった主人公の気持ちを考える。 ・選手として試合に出られなかった主人公の、いらだちや怒りの気持ちなど、人間なら誰しも持つ感情について、自分ならどう思うかなども含め、主人公の気持ちに共感できたか。
	③監督が自分を使わなかったことについて、主人公の気持ちを考える。	○監督がぼくを試合に出さなかったことを、主人公はどのように考えているだろうか。 ・わからない。 ・試合に出さないのなら、何も連れてこなければいい	・少人数のグループになって話し合って、お互いに自分の考えを述べる。 ・主人公の気持ちに共感し、いろいろな立場によって考え方や意見があることを理解し、考えを深めることが

		のに。 ・自分の努力がまだまだ足りないんだ。 ・なぜ帯同メンバーに選んだのに、試合で使ってくれないのか。 ・自分には力が足りないのかもしれない。	できたか。
展	（補助発問） 監督の気持ちについて考える。	（補助発問） ○なぜ監督は主人公を試合で使わなかったのだろうか。 ・わからない。 ・まだまだ力が足りないから試合に出さなかった。 ・努力が足りないから使わなかった。	・少人数のグループになって話し合って、お互いに自分の考えを述べる。 ・監督の率直な考えを引き出していき、主人公の気持ちと対比することができたか。
開	（中心発問） ④主人公が気づいた「当たり前のこと」について考える。	（中心発問） ○「当たり前のことに気づいた」とあるが、主人公はどんなことに気がついたのだろうか。 ・監督のせいだ。 ・恨んでも仕方がない。 ・自分は努力が足りない。 ・自分の考えばかりを押しつけてはいけない。 ・監督には監督の考えがあってのことだ。 ・それぞれの立場によって、考え方は違うのだ。 ・ベンチでも学ぶことはたくさんある。 ・帯同メンバーに選んでくれたことを、監督に感謝しないといけない。	・少人数のグループになって話し合って、お互いに自分の考えを述べる。 ・いろいろな葛藤や苦悩を乗り越えて、自分はどのように生きていけばいいのか、主人公の気持ちを考える。 ・他者を攻撃することではなく、自分自身を見つめ、謙虚に生きていくことの大切さ、自分を向上していくためにいろいろなことを学んでいく姿勢の必要性を理解することができたか。

終 末	7　本時で考えたこと、感じたことを書く。 8　自分の考えを発表する。	○最後に、長谷部誠選手のツイッターを紹介します。	・これからの自己の生き方とつなげて、自分自身を振り返ることができたか。 ・長谷部誠選手の生き方を振り返り、いろいろな考え方があることに気づき、自分自身を振り返って自己の生き方につなげ、謙虚な心を深めることができたか。

9　評価

○生徒からの観点

・主人公の気持ちになって考えることができる。
・主人公の心の変化を感じて共感することができる。
・主人公と監督の考えを対比させて、謙虚に学ぶ心の大切さについて深く考えることができる。
・友だちの意見も参考にして、自分の考えを持つことができる。

○教師からの観点

・資料の内容、展開時の授業構成は、生徒の実態に適切である。
・生徒のつぶやきもよく聴いて、話し合いに活かすことができる。
・本時のねらいとする価値にせまった授業となる。
・これからの自分を考えるための手だてを授業の終末で有効に活用する。

１０　事後指導

実生活の中において、家族や友だちをはじめ、自分と関わる周りの人たちに対して、謙虚で思いやりのある行動をしているか、また、感謝の心を示しているかどうかを観察していき、温かい人間愛についてさらに育んでいく。

１１　備考　　第○学年○組　　男子１７名　　女子１４名　　計３１名

１２　資料分析

《スタート時の条件・状況》　　主人公（　ぼく　）　　相手方（　監督　）

・主人公（ぼく）は、浦和レッズに加入したばかりのサッカー選手。
・初めて遠征試合のメンバーに選ばれた。
・初めて訪れた、自分をアピールするチャンス。
・家族に知らせると、一家総出で応援に来た。
・相手方（監督）は、主人公（ぼく）を遠征試合のメンバーに選んで、試合に帯同させた。

話題にしたい場面	キーワード・主人公の心の動き	話し合いの柱
○初めて遠征メンバーに選ばれた。 ○母親にメールを送った。	○初めてもらったチャンス。これを無駄にしたくない。 ○いいプレーを見せて、監督にアピールしたい。 ○やった。絶対に試合に出られる。	○試合に出て「いいプレーを見せるぞ」と思っていた主人公の気持ちについて。
○ベンチスタートのまま、結局試合に出られなかった。 ○人目を避けるようにしてバスに乗り込む。	○悔しい。情けない。 ○何で試合に使われなかったんだ。 ○家族に会わす顔がない。	○試合に出られなかった主人公の気持ちについて。
○寮に帰ったが、クラブハウスに戻ってボールを蹴り続ける。	○監督は何で帯同メンバーに選んだんだ。 ○自分の力が足りないんだ。 ○まだまだ努力しなければ。	○監督の気持ちについて。また、そのときの主人公の気持ちについて。
○２時間蹴り続けてもやもやした気持ちが吹き飛んでいた。	○監督は悪くない。 ○自分の努力が足りないのだ。 ○恨んでも仕方がない。	○主人公が気づいた「当たり前のこと」について。

１３　板書計画

「恨み貯金はしない」

長谷部　誠

・浦和レッズに加入したばかり
・試合のメンバーに選ばれる
・初めての遠征　　・チャンス！
・家族は一家総出で応援に来る

写　真

「試合の出番を待つ」
・活躍していいところを見てもらいたい
・監督にアピールするぞ
・初めてのチャンスをものにするぞ

「試合に出られずにバスに駆け込んだ」
・くやしい　　・情けない
・家族に合わせる顔がない
・なぜ自分を使わないのか

「監督はなぜぼくを試合に使わなかったのか」
・自分に力が足りないのではないか
・試合に出られると思っていた、自分への戒めではないか
・試合に出ることだけが、全てではない

「当たり前のことに気付いた」
・監督が悪いんじゃない
・自分の心の弱さ
・自分本位の考えに対する甘えがあった
・ベンチにいても、学ぶことはある

添付資料（2）

検　印

越谷市立平方中学校
３年１組

道徳授業計画　時数　1／1

資料名
『療養所 - ｻﾅﾄﾘｳﾑ - 』自作資料
平成２７年　７月１０日（金）
第４校時 11：55　～　12：45（50 分）
指導者　大西　久雄

●●●　今日の授業の目標　●●●

人間尊重の精神に基づく人に対する理解と共感
中心価値：温かい人間愛、思いやりの心　　２－（２）
関連価値：人間の生命の有限さ、かけがえのなさ　３－（１）

使用する教材・教具

教師　資料『療養所 - ｻﾅﾄﾘｳﾑ - 』、授業振り返りシート
　　大型液晶ＴＶ、PC、プレゼンシート、板書カード
生徒　筆記用具

授業の流れ

1　導入　（４分）
・道徳授業の心構えづくり
「おばあさん」のイメージとは？

2　展開Ⅰ　（２１分）
①　料渡し　（9’）
★・登場人物、条件、状況の確認と資料読み［曲『療養所』を流しながら、資料を追わせる。］
★②　ねらいに近づくためのアプローチ　（12’）
・「たった今飲んだ薬の数さえー」から僕のおばあさんへの思いを探る。
・「夜中に僕の毛布をー」からおばあさんに対する僕の心境に思いを馳せる。
・「思いどおりにー」「とるに足らないー」等からおばあさんの状況を推測、理解する。

3　展開Ⅱ　（１５分）
★・「ふた月ものー」「まぎれもなくー」から僕の心境や考えの変化を探り、その思いに迫る。
・「来週からー」から僕の行動決意の真意を考え、その背景となった僕が得たものに思いを寄せる。

4　終末　（１０分）
①再度映像も付した『療養所』を視聴する。
★②振り返り：授業を振り返り自分の思いをまとめる。

本時の目標を達成させるために
―評価の手だて―

・人間理解や尊重に至るためには、その背景や状況をしっかりと理解させる必要がある。そのためにＩＣＴ等を活用した把握に努め、生徒の様子、状況を観察する。
・嬉しいはずの退院を前に心の重さや気がかりがある要因が、僕のおばあさんに対する日頃の観察によることを感じ取れている。
・「歳と共に誰もが―」を嘘だと言える僕の思いの背景がおばあさんを見てきた心の目と関連づけて考えてられている。

さらにもっと！
・おばあさんに関する各エピソードにおいて自分として想像力を駆使して、その時々の思いや気持ちを自分の言葉で他者に語れるように促していく。

もう一度！
・おばあさんの「あれ？」と思うような言動を挙げて、比較してみるように投げかけてみる。その時の僕の気持ちを考えてみるよう促す。

・おばあさんの言動から僕の気持ちが変わっていくことに気づくと共に、悲しい事実の裏にある現実にも目を向けて考えられている。
・僕が最後にたどり着いた結論を導いたものは何なのかを考えられ、また、どうしてそういうことに行き着けたのかに思いを巡らせている。
・授業の振り返りシートから本時を通して、ねらいや価値に迫ることが自分の言葉で語られていると共に、真剣に思いを寄せて考えていたことが文面から読み取れる。

さらにもっと！
・「人を憐れみや同情で語れば嘘になる」とはどういうことか、またそう言い切るのは、おばあさんと僕のどんな係わりからかを探る。

もう一度！
・来週からおばあさんの見舞客になれるとはどういうことなのか、それはどこから来るものなのかを考えてみるように示唆していく。

授業における「自ら学ぶ力と自己指導能力を身に付け、自分に自信を持つ生徒」にするために

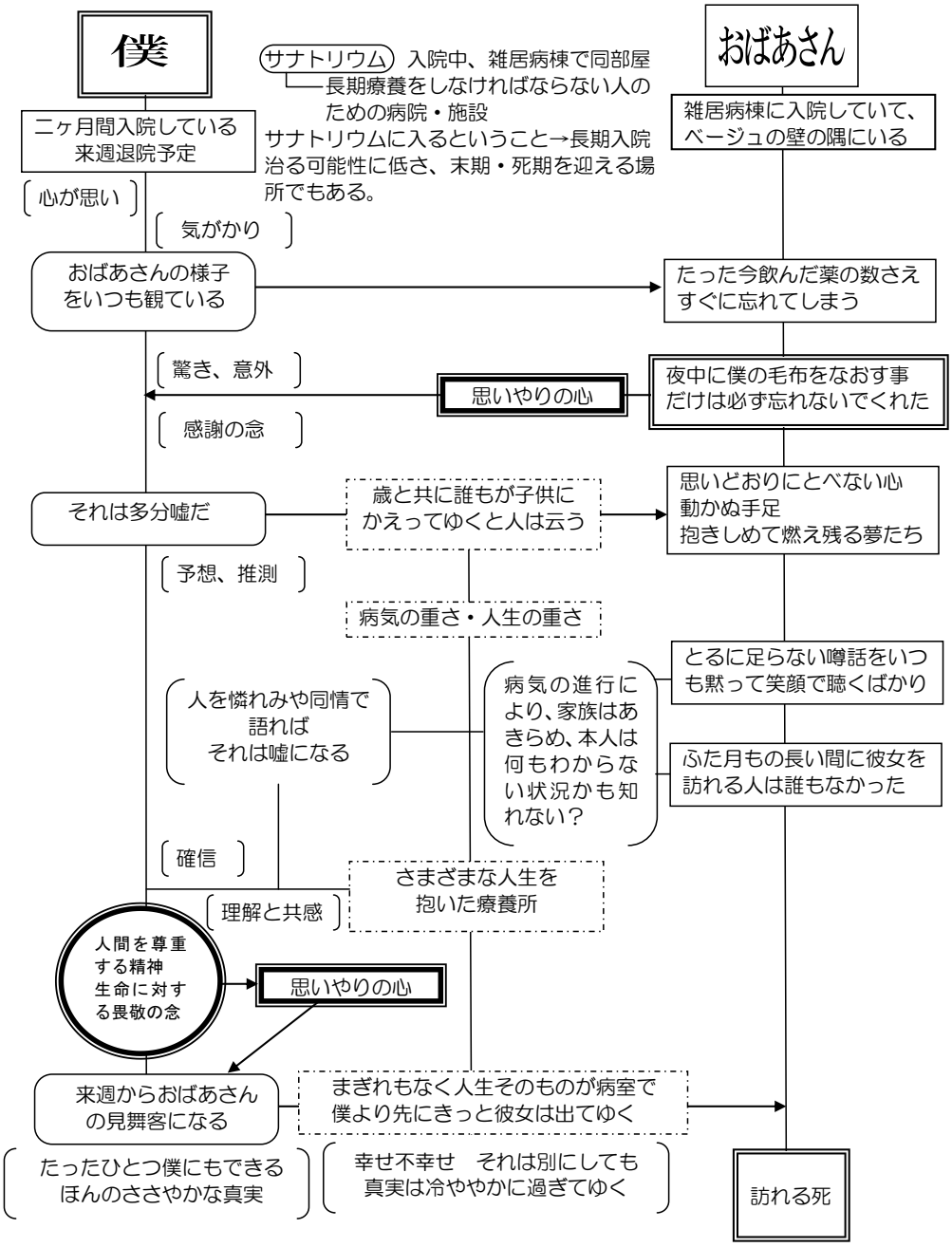
・自分の学びの姿勢をつくらせるために題材とそれを提示する方法等の工夫を行い、意欲を高めさせる。
・他者の考えや思いを知り、自らの考えと比較し、その中で同意したり、反論したりする過程を経る。
・自分の考えを自分の言葉で語る、それを認める場面を意図的に設定する。

本授業におけるその手だてや工夫

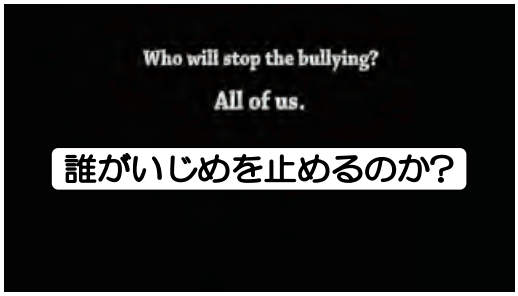
・ICT を活用し、音声や映像で迫れる自作資料を作成すると共に、それらを有効に活用するためにプレゼンソフトを使用した補助資料を提示しながら、授業を展開していく。
・他者の思い、自分の思いを自由に提示しながら、それらを認める空気の醸成を図り、道徳の時間の姿勢や心構えを身に付けさせると共に、自分に自信が持てるよう配慮していく（授業の流れ欄★）。

「療養所ーサナトリウムー」 ねらい[人間尊重の精神に基づく人に対する理解と共感]

自作資料　　出典 さだまさし『夢供養』 1979年　より	中心価値[温かい人間愛、思いやりの心]　　2－（2） 関連価値[人間の生命の有限さ、かけがいのなさ]3－（1）



添付資料（3）


Who will stop the bullying?
All of us.
誰がいじめを止めるのか？

友だちいるの？想像や家族じゃなくて

あんたのダンスチームの何人か
知ってるけど

あの子達あんたの誕生日パーティー、
仮病で行かなかったんだよ

ミュージカルのオーディション
受けたでしょ

皆んな瀕死（ひんし）のブタみたいだった
って言ってた

本当に合格すると思ってたの？

あんたは絶対化粧が必要・・・

いらないわ！
No she do not!

あなたたち、同じことされたら、
嬉しい？・・・楽しい？
Want somebody to do that to you?

〇〇アカウント持ってんじゃねーよ！

君らもっと優しい言葉ないの?
You guys just talking !@#$

同じこと言われたらどう思うの？

あなたたちはわざと人の心を
傷つけてるでしょ。

彼女を一人にしてやれよ。
So leave her alone, please?

皆、あんたは変だって。本好きだし。

いじめんなよ。
Quit messing with her

一緒に乗ってく？

ハーモニカ吹くのは変な奴だけだし。

人権について考える（人権集会にて）

2015.11.16

人権集会で観た映像から下記のそれぞれの問いに自分の考えや思いをまとめてみよう。

年　　組（　　）氏名

誰がいじめを止めるの？

bulling:いじめ

１．この映像からわかることはどんなことですか？	２．この映像はどんなことを言いたかったと思いますか？
３．なぜ、大人は声をかけたのだと思いますか？	４．大人から声をかけられた少女は、どんな気持ちだったと思いますか？
５．誰かが声をかけたことは、どういう意味があったと思いますか？	６．あなたはこの映像からどんなことを考えましたか？

添付資料（4）

検　印	越谷市立平方中学校 ２年２組

道徳授業計画　時数　1／1

教材名：自作教材『Google Glasses Project』

YouTube『すぐそこにある未来をのぞいて』

平成２７年１２月　８日（火）

第５校時 13：45　～14：35（50分）

指導者　大西　久雄

●●●　今日の授業の目標　●●●

情報社会へ責任を持った参画意識と態度の醸成

価値：社会参画、公共の精神　C－（１２）

尊法精神、公徳心　C－（１０）

使用する教材・教具

教師　教材動画、ワークシート、大型液晶TV、タブレットPC、板書カード

生徒　筆記用具

授業の流れ

1　導入　（　1分）
- 授業の心構えづくり
  Web社会、ICTの進展への気づき

2　展開Ⅰ　全体　（　4分）
教材渡し
- 教材動画を大型TVで提示。
- Google Glass(Project Glass)の動画ですぐそこまで来ている未来であることを伝える。
- どんなことができるのかに気を付けて教材を観ることを指示。

★3　展開Ⅱ　班活動　（２５分）
- 各班にタブレット、ワークシートを配布し、活動の準備。
- 動画を再生させて個人、班で①～④を整理、分析し話し合う。
  ①知識：どんなことができるようになるのか？
  ②理解：便利なこと、心配なことは何か？
  ③応用：情報社会とはどんな社会なのだろうか？
  ④分析：この眼鏡を皆が持ったら、どうなるだろう？

★4　展開Ⅲ　全体活動　（１５分）
- 各班の話し合いの集約。
- 全体で考える。
  ⑤統合：情報社会に参画するために大切なことは何か？

5　終末　個人活動（　5分）
- 授業を通しての振り返り
  ⑥あなたはその一員としてどう考えるか？

本時の目標を達成させるために ―評価の手だて―

「どんな未来がすぐそこに来ているのか」の実感と共通認識がある。
- 動画から個人、班での作業を通して、自分たちが直面する現実に目を向けている。
- 自分はそのことをどう受け止めているのか、班の仲間は自分の考えと同じか、異なるか、それはどういう点で異なるのか、を意識している。
- 意見や考え方には相違があることを認め、それが情報社会での論点にもなることに気づいている。

さらにもっと！
自分がわかって、班の仲間がわかっていないことは積極的に教えて、情報を主体的に発信し、共有することの意義を実感させる。

もう一度！
英語でわかりづらいところやよくわからないことは、班の仲間に聞いていいことを伝える。また、わからないの意志表示を主体的にするよう指示。

情報社会に参画するために大切なことは何か？
個人、班、全体の活動を通して
- 他者への慮り、配慮、価値観の相違を大前提としている。
- 便利、効率性の中に潜む闇に気づけている。
- 様々な考え方や価値観の中でも自分を見失わない姿勢や態度の必要性を実感している。
- 自分の意見をしっかりと持つことができている。

アクティブ・ラーニングの活動そのものが、情報社会に参画する態度と同じであることに気づいている。

さらにもっと！
情報社会特有の観点と社会一般的な共通の観点の両面から考えさせる。今行っている班活動も同様であることに気づかせていく。

もう一度！
立ち止まっている者には、思考六段階の②理解に還って考えるよう示唆する。自分はこの技術を快か、不快か、さらに何が必要かを考えさせる。

授業における「自ら学ぶ力と自己指導能力を身に付け、自分に自信を持つ生徒」にするために

- 自らの考えを持つこと、それを発表することの実践を経験する。
- 他者の考えや思いを知り、自らの考えと比較し、その中で同意したり、反論したりすることを通して、意見の調整や納得解を得たりする。
- 自分の考えを他者に伝えるために自分の言葉や態度などを選択する。

本授業におけるその手だてや工夫

（授業の流れ欄に★）
- 自らの考えを持つ、他者と意見調整をするなどのために、ICTを活用して班のメンバーと意見共有や議論する場を容易にさせる。
- 何を話し合うのかを明確にするためにワークシートを支援策として用意する。
- 結論や解答がひとつとは限らない話し合いを通して、共通の納得解の合意決定を経験させる。

「すぐそこにある未来をのぞいて」

ねらい［ 人間尊重の精神に基づく人に対する理解と共

自作教材　出典:Huzaifah Bhutto
『Google Glasses Project』YouTube より

価値 C 主として集団や社会との関わりに関すること
［ 社会参画、公共の精神］　C－（１２）
［ 尊法精神、公徳心 ］　C－（１０）

朝自習で取り組む思考の六段階レベルに準じて考え、話し合うアクティブ・ラーニングの形式をとる。

気づき、身に付けさせたい意識や態度
- 情報社会への参画に責任ある態度で臨み、義務を果たす
- 情報社会に一員として公共的な意識を持ち、適切に判断し行動できる
- 情報に関する自分や他者の権利を理解し、尊重する
- 情報社会のルール、法律を知り、遵守する

教材渡し ― 教材分析 個人思考 ― 意見交換 班内話合い ― 全体話合い ― 振り返り 個人思考

- 情報社会参画への責任ある態度、義務とは
- 情報社会の一員としての公共的な意識とは
- 情報に関する自分や他者の権利とは
- 情報社会のルール、法律とは

個人情報、プライバシー、人権、著作権・意匠権など正式な名称、法律などを知らなくとも、大事なもの、権利であることに気づき、遵守していく態度ができることをねらいとする。

道徳授業「すぐそこにある未来をのぞいて」

年　　組（　　）氏名

g.co/projectglass

1．どんなことができるようになるのか？	2．便利なこと、心配なことは何か？
3．情報社会とは、どんな社会なのだろうか？	4．この眼鏡を皆が持ったら、どうなるだろう？
5．情報社会に参画するために大切なことは何だろう？	6．あなたはその一員として、どう考える？